



学校だより

調布市立調和小学校
令和6年1月9日(火)
校長 武田 美穂子

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho> Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

本年もよろしくお願ひいたします

校長 武田 美穂子

令和6年元旦、晴れ渡る青空の下、新しい1年がはじまりました。保護者・地域・関係の皆様方におかれましてはご健勝の上、新年をお迎えになられたことと思います。おかげさまで本日1月9日(火)に第3学期始業式を迎えることができました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

649名で迎えた第3学期始業式で児童へ伝えた話題を以下に紹介させていただきます。



年末から年始にかけて私事ですが、いつもはできない箇所の掃除をしたり、いつもは取り組まない片付けをしたりと1年間のやり残したことをどうにかクリアにして「新たな年を迎えたい。」と…思いつつも、新聞を読み、テレビを視聴し、といったのんびりした年末でした。その中で心に留めたことをいくつか話をします。

大晦日、あるテレビ番組を見ていると、令和5年度NHK合唱コンクール中学校の部の課題曲が流れてきました。作詞・作曲をしたグループが歌っているのですが、途中からこの課題曲を歌った中学生の動画が画面いっぱいになり、グループと一緒に熱唱していました。「同じ時代を生きる皆さんにたくさんの幸せが降り注ぐように」という思いの込められたこの曲に、中学生からの歌唱動画を募集しコラボレーションするといったパフォーマンスでした。曲の名前は「Chessboard」といいます。改めてちょっとせつない歌詞の意味や楽曲の構成を味わうことができたのですが、何よりも心が熱くなったのは動画に出演している生徒さんたちの表情です。歌唱が上手かどうかは視聴しているだけではよくわかりません。ですが、次々に出てくる動画の中学生の表情は生き生きとしていて、その瞳が未来を見つめて輝いているように感じました。もちろん人気のグループとコラボレーションできるからといった応募理由の方もいらっしゃると思いますが、私には音楽の、表現の、人のもっている心の熱さ、つながりや絆が伝わってきました。



そしてもう一つは、思いもよらないことが起こることです。年明けに発生した石川県能登地方を震源とする地震、空港での旅客機の事故等がございました。被災された方、事故に巻き込まれた方、そしてそのご家族の皆様、改めてお見舞い申し上げます。

この年始の災害や事故を通して予測困難なことはまだまだたくさんあると感じ、その「いつか」に備え、今自分たちができることを、精一杯準備しておくことの大切さを改めて認識しました。備えていても、自然の猛威や不可抗力の事故等に遭ってしまうこともあるでしょう。家族を救うために全力を尽くす方々、かけがえのない命を救おうと必死に救助活動に励まれている方々、何かできることはないかを考え続けている方々…。報道を通してですが、たくさんの方々が自分の命、他人の命と向き合い、「生きている」という今、ここにある「生」を感じ、胸が熱くなりました。

この二つに共通しているのは「生きる」ということと「つながる」ということです。私たちは今ここに生きています。今、ここでこの日にみんなで始業式を迎えられたことに感謝するとともに、一人一人の思いや願ひを大切に、互いの心を響き合わせ、充実した3学期にしていきたいと思います。

さまざまな困難や悲しみ、苦しみに打ち克とうとする生き抜く力とレジリエンス(resilience:精神的な回復力、しなやかな弾力性ともいわれています)を備えていくことが、児童が成長し、大人となっていく過程や社会生活を営む中で一つの大きなポイントになっていくと考えます。人は一人では生きていけません。自分と自分以外の誰か等の関係性の中で互いを認め合い、高め合い、励まし合い、生き抜く力を身に付け、磨くこと。かけがえのない命の重みや輝きを理解し、生活の中で一人一人が実感し、互いで大切に合えること。これは学校教育が担う大きな責務でもあります。

令和6年も教職員一同、児童一人一人の健やかな成長のために全力を尽くして参ります。引き続き、保護者の皆様、地域の方々の支えをいただきながら、ぜひ皆様のお力を本校へ寄せていただけましたら幸いに存じます。



響き合う。わたしとあなたと調和小～HP更新中～

